

川崎陸送

ブータンで定温・冷蔵倉庫建設へ

シンゲ・グループとMOU

川崎陸送（本社・東京都港区、樋口恵一社長）は11月28日、ブータン王国の最有力企業グループのひとつであるシンゲ・グループ（Singye Group）

とMOU（覚書）を締結し、首都ティンプルーで樋口社長とシンゲ・グループのUgen Tsechup 会長が署名した。ブータンにおける農業振興と青果物や加工品

の輸出拡大に向け、定温倉庫の整備で協力していく。

ブータン財閥系のシンゲ・グループはブータン西部、南部に広大な土地を有しており、同グループの土地に川崎陸送が定温・冷蔵倉庫を建設する計画を進めている。具体的には、インドと国境を接するブータン王国で人口第2位の都市プンツォリ



樋口社長（右）とUgen Tsechup会長

ンの産業エリアで3カ所程度の候補地を検討している。定温・冷蔵倉庫の整備により、ブータン国産野菜の長期保管が可能になり、安定した価格での国内供給が図られるほか、ブータンの無農薬野菜の海外へ

の輸出にも寄与できる可能性がある。また、川崎陸送が隣国インドの西ベンガル州北部で計画している小型の定温倉庫と連携し、インド〜ブータン間の輸出入の促進も視野に入れている。国内総生産（GDP）ではなく国民総幸福量（GNH）という指標を提唱するヒマラヤのブータン王国は、農業を主要産業とし、約70万人とされる人口の約6割が農業に従事している。大乘仏教の流れにより殺生を禁じており、世界で初めて無農薬農業を目指していることでも知られる。

るジャガイモは定温倉庫がないため、長期保存ができず、インドに安く輸出されている現状がある。また、農家と道路が遠いなど交通の不便もあり、生産地や中継地での定温・冷蔵倉庫の潜在需要が見込まれている。川崎陸送では、国際協力機構（JICA）の支援とインドの西ベンガル州政府の協力のもと、コルカタ市郊外のシンゲールでソーラー発電・蓄電式の小型定温倉庫を「ショールーム」として建設。今後、ブータンに近い北部のバグドグラ空港近接地、ファンシディア、同州最大の農産物市場があるデュープグリなどで同様な小型の定温倉庫の建設を検討している。